

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]  
(平成13年12月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成13年11月分(10月29日~12月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6	0.01	0.04		12	麻疹	4	0.01	0.12	
2	咽頭結膜熱	55	0.15	0.05	↗	13	流行性耳下腺炎	506	1.35	0.82	↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	375	1.00	-	↗	14	急性出血性結膜炎	5	0.05	0.03	
4	感染性胃腸炎	1,690	4.51	3.63	↗	15	流行性角結膜炎	90	0.90	1.12	↘
5	水痘	542	1.45	1.26	↑	16	急性脳炎	2	0.02	-	
6	手足口病	266	0.71	0.32	↗	17	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.02	
7	伝染性紅斑	50	0.13	0.07	↗	18	無菌性髄膜炎	13	0.12	0.53	↗
8	突発性発疹	263	0.70	0.61	↗	19	マイコプラズマ肺炎	40	0.38	-	↗
9	百日咳	5	0.01	0.05		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	9	0.02	0.06		21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	23	0.06	0.08	↓	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

### 定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内186の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	26	21	186

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。  
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に  
インフルエンザホームページは「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	68	2.62	1.99	⇨	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	110	5.24	-	⇩
23	性器ヘルペスウイルス感染症	10	0.38	0.65	⇩	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	66	3.14	-	⇨
24	尖圭コンジローム	15	0.58	0.30	⇩	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	9	0.43	-	
25	淋菌感染症	27	1.04	0.89	⇩	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

水痘 急増（10月207件 11月542件）  
 ヘルパンギーナ 急減（10月41件 11月23件）

## 2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症，二類感染症，三類感染症 発生なし  
 全数把握四類感染症 22件発生  
 （アメーバ赤痢2件，急性ウイルス性肝炎1件（A型），ツツガムシ病18件，  
 レジオネラ症1件）

## 3 一般情報

### ツツガムシ病（全数把握対象四類感染症 診断後7日以内に届出）

ツツガムシ病が18件発生しました。県内では例年11月がピークとなっていますが，昨年（13件）と比較して増えています。

県内では，平成11年4月以降64件（11年15件，12年23件，13年26件），全国では同じく1,631件（11年528件，12年756件，13年347件）発生しています。  
 （原因）山野に生息する病原性リケッチアを保有するツツガムシ（ダニの一種）の幼虫に刺咬されて発病する。  
 （症状）刺されたところ（刺し口は通常1個）に膿疱や潰瘍，全身倦怠，頭痛，発熱，リンパ節の腫れなど。（多くは刺されてからおよそ8～11日で発病。）  
 （流行時期）県内では秋（特に10～11月）  
 （注意すること）山野に入るときには，皮膚の露出部分を少なくし，帰宅後，入浴時などに皮膚（特に腋の下，腹部，陰部などの柔らかいところ）への虫の付着を確認する。  
**皮膚に刺された感じがあり後に発熱した場合には，医師にその旨を告げて早めに診療を受ける。**

参考図書：感染症予防必携（（財）日本公衆衛生協会‘99）

10月分2件の追加入力があつたため，平成11年4月以降64件，13年26件となっています。